

デートDV

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーからふられる暴力のことをいいます



◆「デートDV」って、どんなこと?

DV(ドメスティック・バイオレンス)が社会問題となっていますが、これは決しておとなだけの問題ではありません。「デートDV」といって、社会に出る前の高校生や大学生の男女間の交際でも、同様の暴力が起きているのです。例えば、交際相手との関係で、次のような経験はありませんか?

- ・どなる、叫ぶ、わめく、皮肉やいやみを言う
- ・「怒らせるようなことを言ったお前が悪い」と責める
- ・自分以外の異性と話すことを禁止する
- ・携帯の履歴をチェックしたり、行動を制限したりする
- ・「別れたい」と言う脅す
- ・性的行為をこばむと冷たい態度をとる

実はこれらは全てパートナーへの暴力にあたる行為です。DVという、殴る、蹴るといった「からだへの暴力」だけと思いがちですが、それだけとは限りません。上の例のような、ののしるなどの「言葉の暴力」、行動を制限するなどの「心理的暴力」、避妊に協力しないなどの「性的な暴力」なども含まれます。DVとは、親密な関係になった相手に対して、様々な暴力を用いて女性を自分の思い通りに支配しようとして起こるものなのです。

◆暴力は愛情表現ではありません

ところが、暴力をふるう側もふるわれる側も、それが恋人同士なら当然のことと思込んでいると、なかなか気づくことができません。ある女性は、「愛しあっている相手から暴力をふるわれるわけがない。命令されたり、束縛されるのは愛されている証拠だし、彼が暴力をふるうのは自分がいたらないからだと思って」

しかし、どんな理由があるにせよ、暴力は暴力です。恋人同士であっても許されるものではありません。それは好きになった大切な人を深く傷つけてしまう人権侵害なのです。

◆友だちが暴力をふるわれていたら……

DVは、一度起きると繰り返されます。別れようとするともますます激しくなり、暴力のある関係から抜け出せなくなってしまいます。もし、友だちが被害にあっているようなら次のようなサポートをしてあげましょう。

- ・彼女を批判せず、相手の立場になって話を聞く
- ・「あなたの責任ではない」と言ってあげる
- ・相談を受けた話は他言しない
- ・自分たちだけで解決しない
- ・相談機関や信頼できるおとなに話せるように支える
- ・DVについて勉強し、情報を提供する

◆暴力のない社会に向けて

デートDVのような若い男女間の暴力をなくしていくには、家庭や学校教育の中で人権の大切さを教えていくとともに、個人の尊厳を傷つける様々な暴力を容認しない社会を形成していくことが必要です。そして男女が対等で、お互いを尊重しあえる関係を私たちおとなが築き示していくことが何より大切です。

●さいたま市では、「女性に対する暴力の根絶」について男女共同参画のまちづくりプランをすすめる上での重点施策とし、女性の人権に対する啓発活動や情報提供、被害を受けた女性に対する相談や自立支援体制などの施策を推進しています。また、DVの根絶に向けた講演会を11月12日(土)14時から16時まで開催します。講演会の詳細については、パートナーシップさいたま(TEL642-8107)にお問合せください。



女性に対する暴力をなくす運動
(毎年11月12日~25日)

You & Me information

パートナーシップさいたま 広報誌『鐘の音』



さいたま市男女共同参画推進センター「パートナーシップさいたま」では、広報誌『鐘の音』を年4回発行しています。当センターのほか市の公共施設にありますので、どうぞご覧ください。

問合せ先●パートナーシップさいたま
TEL/048-642-8107 FAX/048-643-5801
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18
シーノ大宮センタープラザ3階

さいたま市 男女共同参画施策に対する苦情の申出

男女共同参画社会の実現をめざして、「さいたま市男女共同参画のまちづくり条例」に基づき、市民の皆さんからの男女共同参画に関する施策に対する苦情の申出を受け付けています。

※なお、セクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害に関する苦情や相談については対象となりません。

問合せ先●男女共生推進課
TEL/048-829-1231 FAX/048-829-1969
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4

ストレスチェック

こんな症状を感じたら、
自分をいたわりましょう

◆過去6ヶ月を振り返って、質問に教えてください

からだの症状

- よく肩がこる
- 全身がだるい
- 腰が痛む
- めまいがする
- 下痢や便秘がちである
- 胸が圧迫されるようで苦しい
- よくのどが渇く
- 手足がしびれる

こころの症状

- 朝早く目が覚める
- 朝、陰気な気分がする
- 仕事にとりかかる気になれない
- 物事がなかなか決断できない
- なんとなく不安でイライラする
- いっその世から消えてしまいたい
- これから先の自信がない
- 人に気軽に会えない

「はい」が

- ◆10個以上……………ストレスが心身に現れています。
心療内科などで受診しましょう。
- ◆5~9個……………休養をとって疲れをとる必要があります。
- ◆5個未満……………とくに心配ありません。

出典/東邦大学医学部名誉教授 筒井未春先生の資料より

家事が手につかないほど、からだの不調を訴える妻。更年期のせいでしょうか? (50代・男性)



も進み、ホルモン治療や漢方薬を用いた様々な治療が受けられます。更年期は男性にもあります。ホルモンの変化がゆっくりしているため、症状は女性ほどはっきりしたものではありません。ただ、男性の場合、社会的に責任のある立場となる時期と重なります。弱音がはけない男性は、うつ状態になりやすいのです。誰にでも訪れる更年期を上手に乗りきるには、お互いの心とからだの変化を理解し、心身ともにつつたりと過ごせる家庭環境をつくりましょう。

夫が定年を迎え、家にいるようになってからストレスを感じています。(60代・女性)

仕事ひと筋に生きてきた男性にとつて、定年後の生活になかなか馴染めないのは無理もないことです。妻としては、そんな姿を見ているのはつらいことかもしれせん。

しかし、定年後の人生こそ、お互いの生き方を尊重しあうことが必要ではないでしょうか。まずは、夫の生活を見守りながら、ご自身がこれまで通り、自分のペースで生活を楽しむことが一番です。更年期を夫婦でいきいきと過ごすには、それぞれが生きがいを見つけ、個として自立した生活を送ることが大切です。

これまで女性の健康は、とかく家族のなかでは見過ごされがちでした。また女性自身も、家事・育児は自分の役目だという思いに縛られて、自分のからだのことは後回しにしてきた面があります。しかし、自分の健康は自分でつくるものです。男女がお互いの健康に配慮しながら共に支えあい、生涯を通じていきいきと暮らせる、そんな男女共同参画社会を築いていくことが求められます。

パートナーシップさいたま相談案内

自分のこと、家庭のこと、職場のことなど、様々な悩みを女性の相談員がお聞きします。まずは、お電話ください。

●女性の悩み電話相談
相談室 TEL/048-643-5813
【月~金】10:00~20:00
【土日祝】10:00~16:00

●心とからだの健康相談(予約制)
TEL/048-642-8107
【第3月曜日】13:00~16:00